

平成25年度

第58回 長野県中学校連合教科研究会

社会科

目 次

I 研究テーマ	1
II 研究の趣旨	1
III 参加校の研究要旨一覧と参加者名, 指導者名	2～5
IV 研究問題と協議内容	5～10
V 本年度の研究の反省と来年度の方向	10～11
VI あとがき	11

I 研究テーマ

社会的事象に対する見方や考え方を深め、表現していく社会科の学習はどうあったらよいか

II 研究の趣旨

生涯にわたって学び続けていくために、社会的事象に対する関心を高め、一人一人が主体的に探究し、自分の見方や考え方を表現しながら深めていく教材化を図る。教師の教材化に基づく授業が、生徒一人一人の見方や考え方を深めるためにどうであったのか具体的な生徒の姿からとらえ、共有の財産としていきたい。

III 参加校の研究要旨一覧と参加者名、指導者名

第一分科会

指導者	櫻井 洋 先生	(南信教育事務所指導主事)
司会者	簾田 典彦 先生	(松本市立梓川中学校)
記録者	中村 広登 先生	(塩尻市立塩尻中学校)
世話係	市川 厚 先生	(附属松本中学校)
学校名	氏名	参加校の研究の要旨
川上村立 川上中学校	井出 岳	<ul style="list-style-type: none">幕藩体制を学ぶ場面で、生徒の意識をどのようにつなげ、考えを深めていくか構想した。グループ学習から全体追究へ発展させていくための切り口を工夫した。
下諏訪町立 下諏訪中学校	高橋ひかり	
塩尻市辰野町 中学校組合立 両小野中学校	岡村 賢児	<ul style="list-style-type: none">社会的事象の見方や考え方を広げ深めるために、アフリカ州に関わる「人」との出会いの場面を設定した。グループ討議など、友と関わり意見交換を活発にするための手立てを工夫した。
塩尻市立 塩尻中学校	中村 広登	<ul style="list-style-type: none">東北地方を「生活・文化」を中核にしなが、特に「祭り」に着目して学習した。付箋紙を用いて事象を整理・関連させながら説明する活動を行った。
大町市立 仁科台中学校	山崎 慎也 山口 雅子	<ul style="list-style-type: none">中部地方の三つの地域を6つの視点に分け、各地域の特色を説明する活動を行った。自分の調べた産業を別の視点から考える活動を行い、複数の視点から産業をとらえ直した。
千曲市立 埴生中学校	小林 聖矢	<ul style="list-style-type: none">生徒自身が社会的事象を自分に引き寄せて考えることができるよう資料の提示を工夫した。資料の精選と歴史の流れをつかむための学習問題と学習課題の関わりの研究を行った。
信濃町立 信濃中学校	岸田 祥吾	
小布施町立 小布施中学校	宮坂 俊	
須坂市立 常盤中学校	柳澤 知奈	

長野市立 東部中学校	田中 良和	<ul style="list-style-type: none"> 北海道地方の学習を通して、各地域の産業の特色を理解できるように構想した。 農業の特色を、個人追究の時間の確保や複数の資料の読み取りからおさえられるようにした。
信州大学教育学部 附属長野中学校	麦島 隆	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的事象を書きためた「ストックシート」を基に時代転換の様子を「スクリーンシート」にまとめる活動を位置付けた。 友と「スクリーンシート」を使って異なる観点に着目して意見交換を行い、「スクリーンシート」を見返す活動を位置付けた。
松本市立 高綱中学校	百瀬 仁晶	
松本市山形村朝日 村中学校組合立 鉢盛中学校	下島 史生	<ul style="list-style-type: none"> 中国地方を取り上げ、生徒の社会認識が揺さぶられたり生徒のまとめが活かされたりする学習問題の設定について工夫した。 同じ視点をもつグループを構成し、お互いの考えや根拠を問い合う活動を設定した。
松本市立 梓川中学校	簾田 典彦	<ul style="list-style-type: none"> 様々な視点から社会的事象をとらえるために「ロールプレイ」を取り入れグループ討議を行った。 見方・考え方を広げるための話し合い活動および資料提示の工夫を行った。
信州大学教育学部 附属松本中学校	市川 厚 酒井 文子	<ul style="list-style-type: none"> 戦国時代における地域の伝説（「敵に塩を送る」）に着目して、歴史的史実や資料をもとに自らの問いを追究していった。 自分の問いの解決に向けて調査の時間を十分確保することで、必要な資料を選択したり読み取ったりできるように構想した。

第二分科会

指導者	柳澤 正寿 先生	(東信教育事務所指導主事)
司会者	可知 貴彦 先生	(塩尻市立丘中学校)
記録者	日岐 知佳 先生	(松本市立女鳥羽中学校)
世話係	柳澤 大介 先生	(附属長野中学校)
学校名	氏名	参加校の研究の要旨
上田市長和町 中学校組合立 依田窪南部中学校	中村 和彦	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が「どんな会社が投資してもらえる会社なのか」を考える中で、仮想の会社をつくったり、個人投資のシミュレーションを行ったりして現代の企業の仕組みや働きを理解することができた。 社会における企業の役割と責任について多面的・多角的に考えた。
立科町立 立科中学校	桜庭 美嘉 武藤 彩乃	
伊那市立 西箕輪中学校	古村 淳仁	
駒ヶ根市立 赤穂中学校	中山 敦	<ul style="list-style-type: none"> アジア州に関わる一人ひとりの関心や疑問について発表し関わる意見を結びつけ、追究するための主題や学習問題を設定した。 アジア州の成長の姿と問題点についての考えを発表し合う活動を通して、新しい見方でアジアの成長をとらえられるようにした。
根羽村立	井澤 進一	

根羽中学校		
飯田市立 鼎中学校	宮田 雄	<ul style="list-style-type: none"> ・「武士の世の始まり」の単元で、人物マップを作成・比較したり中心人物の願いをまとめたりする活動を位置づけることで、既習事項の事実認識をより確かにし、予想においても既習事項をふまえた根拠をもてるようにした。
塩尻市立 丘中学校	可知 貴彦 佐藤 伸一	<ul style="list-style-type: none"> ・一面的な物事のとらえ方から、社会的事象の違った側面に気づき、事象を違った視点から眺めることができる力を願った。 ・視覚的にとらえやすい資料や読み取る内容が限定できる資料を用意した。提示する順序も考慮しながら学習展開を考えた。
白馬村立 白馬中学校	曾根原祐二	<ul style="list-style-type: none"> ・45分授業の中で「挨拶と導入をスムーズに行う」こと、「学び合いやシェアリング」「まとめ」に時間をかけることを実践した。 ・言語活動の充実を柱とする実践研究の中で「表現のもと」になる「探究心」をもつための手立ての必要性について考えた。
須坂市立 相森中学校	北原 遼司	
長野市立 中条中学校	小宮山敬太	
信州大学教育学部 附属長野中学校	柳澤 大介	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的事象を書きためた「ストックシート」を基に時代転換の様子を「スクリーンシート」にまとめる活動を位置付けた。 ・友と「スクリーンシート」を使って異なる観点に着目して意見交換を行い、「スクリーンシート」を見返す活動を位置付けた。
松本市立 丸ノ内中学校	有賀 武 藤松 輝州	<ul style="list-style-type: none"> ・表現することが得意でない生徒が、資料を通して社会的事象を多面的・多角的に自分の言葉で説明できる姿を願った。 ・「はだしのゲン閲覧制限問題」を取り上げ、グループ内で意見交換を行ったり、自分の考えをまとめたりする活動を位置付けた。
松本市立 女鳥羽中学校	日岐 知佳	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の社会的事象の関心を高めるため、「学び合い」として4人グループでの活動を多く取り入れた。 ・友の多様な考えをすり合わせ、自分なりの考えを作り吟味し、広めていくことができるよう学習カードのレイアウトを工夫した。
信州大学教育学部 附属松本中学校	中村 大樹	<ul style="list-style-type: none"> ・戦国時代における地域の伝説（「敵に塩を送る」）に着目して、歴史的史実や資料をもとに自らの問いを追究していった。 ・自分の問いの解決に向けて調査の時間を十分確保することで、必要な資料を選択したり読み取ったりできるように構想した。

第三分科会

指導者	百瀬 顕正 先生	(北信教育事務所指導主事)
司会者	白井 克典 先生	(松本市立清水中学校)
記録者	荻原 拓 先生	(松本市立松島中学校)
世話係	内川 啓 先生	(附属長野中学校)
学校名	氏名	参加校の研究の要旨
長和村立	西村 良幸	・歴史の大きな流れをとらえられるようにするために、前の時代の

和田中学校		<p>特色をまとめる活動や時代の特色を比較する活動を位置付けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体的な学習を目指し、資料展開の工夫、追究方法の工夫、資料提示についての工夫を図った。
上田市立 菅平中学校	三井 裕樹	<ul style="list-style-type: none"> 経済を身近に感じ、経済への学習の意欲をもてることを願って授業を構想した。 一人暮らしの設計図を考える活動やグループでの話し合い活動を位置付けた。
辰野町立 辰野中学校	樋口 達也	<ul style="list-style-type: none"> 災害を身近にとらえ、防災や減災に向けて主体的に考えることができるように平成18年7月の豪雨災害を導入で取り上げた。 辰野町防災ハザードマップから物質的な備えだけではなく危険箇所や避難場所を確認することの重要性に気づけるよう構想した。
伊那市立 伊那中学校	篠田 奈々	<ul style="list-style-type: none"> 北アメリカ州のヒスパニックの増加とその背景を追究することで、生徒が主体的に活動できる授業を構想した。 ヒスパニックの人たちがアメリカに来る理由を友達の考えを聞いたり、資料から読み取ったりする活動を位置付けた。
松川町立 松川中学校	松澤 和憲	
安曇野市立 穂高西中学校	伊藤 彬	<ul style="list-style-type: none"> 百姓のくらしが豊かになっていった背景を追究したり、江戸時代の百姓の人口推移の資料を読み取ったりすることを通して、「天下泰平の世の中」がどのような時代であったのかを表現できるようにした。
大町市立 第一中学校	勝山 考平	
千曲市立 屋代中学校	篠原 岳成	<ul style="list-style-type: none"> 近畿地方のまちの特徴を表すマスコットキャラクターから、そのまちの特徴を調べることを通して、近畿地方の地域的特色をとらえたり、社会的事象を自己に引き寄せたりできる社会科学習を目指した。
長野市立 三陽中学校	佐藤 創	
信州大学教育学部 附属長野中学校	内川 啓 坪井 千幸	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的事象を書きためた「ストックシート」を基に時代転換の様子を「スクリーンシート」にまとめる活動を位置付けた。 友と「スクリーンシート」を使って異なる観点に着目して意見交換を行い、「スクリーンシート」を見返す活動を位置付けた。
松本市立 清水中学校	白井 克典	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的景観が多く残されている理由を京都市における企業の取り組みから追究する活動を位置付けた。 歴史的景観が保護される理由を歴史的価値の継承と歴史的景観がもたらす経済効果の2つの面から説明できるよう構想した。
松本市立 鎌田中学校	内城 正登	<ul style="list-style-type: none"> 国際紛争の現状や世論、領空侵犯、国防軍に対する考え方など、平和主義について多面的に考察するようしたり、見方・考え方を深めるために友と意見交換する活動を位置付けた。 平和について、漠然とではなく多面的に考えられるよう構想した。

松本市立 信明中学校	黒岩 正章	<ul style="list-style-type: none"> ・日本企業や身近にある企業がアジアの国々に進出した理由を各地域で繰り返し考察するようにした。 ・同じグループで継続して学習したり，役割分担や発表の進め方を明確にしたりすることで，活発な話し合いが生まれるようにした。
松本市立 松島中学校	荻原 拓	
信州大学教育学部 附属松本中学校	楠 武明	<ul style="list-style-type: none"> ・戦国時代における地域の伝説（「敵に塩を送る」）に着目して，歴史的史実や資料をもとに自らの問いを追究していった。 ・自分の問いの解決に向けて調査の時間を十分確保することで，必要な資料を選択したり読み取ったりできるように構想した。

IV 研究問題と協議内容

【第1分科会】

討議1 生徒の見方・考え方を深めていくための学習問題，単元展開の在り方

1 レポート発表

- (1)アフリカ州のモノカルチャー経済下の人々の暮らしを追究していく際にジンバブエに着目し，生徒の見方・考え方を深めるために「人」との出会いの場面を設定した実践。（両小野中）
- (2)中国地方の学習で人口や都市・村落を中核とした考察をしていく上で，長野県の現状をもとにして過疎化の対策を視点別のグループ活動に分かれて考えていった実践。（鉢盛中）
- (3)北海道地方の学習をする上で，学習課題を明確に示したり，個人追究の時間を十分にとり，複数の資料を関連させて読み取ったりすることで，北海道の農業の特色を理解できるように構想した実践。（長野市立東部中）

2 協議

- (1)アフリカ州の学習など地理の学習ではゲストティーチャーなど人に触れあえることができると生徒も興味を持てるし，自分のこととして考えやすい。
- (2)ゲストティーチャーの生き様に触れることができると大きな意味がある。ただし，必要感がどれほどあるのか，どんなことをしゃべっていただくのか，事前の準備や打ち合わせが重要である。
- (3)ゲストティーチャーにしても，VTRを見せるにしても，内容ももちろんが出しどころが大事である。せっかく生徒が一生懸命考えた案も，最後にゲストティーチャーやVTRで答えが出てしまうのは生徒も不完全燃焼に終わる。

3 指導者の先生のご指導

言語活動とは多くの情報を取り入れて感受して思考判断していくという幅広い営みが言語活動である。グループ学習は多様な考えを認め合う教科である社会科としては有効な手立てである。しかし，ただグループで集まっている学習では不十分。学びは個に始まって個に終われるようにする。

討議2 出会った資料，人との関わりのなかで，時代を大観し，自己につなげる単元展開の在り方

1 レポート発表

- (1)室町幕府の歴史を学ぶ上で，追究資料の工夫によって，生徒が社会的事象を自己に引き寄せるように構想した実践。（埴生中）
- (2)戦国時代の歴史を身近な松本市の歴史を通して学ぶ場面で，生徒自らの問いを追究し，時代を大観する単元展開を構想した実践。（附属松本中）

2 協議

- (1)時代を大観する学習では，戦国大名以外にも民衆など様々な角度から時代を見ていく必要がある

のではないか。

(2)学習問題をつくる上では子どもにどういう風になって欲しいか考えた方がよい。また、教師側も学習問題に対する答えを意識して授業展開をする必要がある。

3 指導者の先生のご指導

(1) 社会的事象とは人との関わりすべてを対象にしており、社会科とは当時の人々の取り組みの事実

に学ぶこと。当時の人々の思いも大事だが、そうせざるをえなかった事実の背景を大事にしたい。

(2)伝説を教材として扱う際には安易に教材化をするのではなく、語れる資料があるか、教師に学ばせたい事実があるかが重要となる。附属松本中の実践は、伝説をもとにした学習問題から出発し、歴史的

事実の背景を大事にしたい。

討議3 友との関わり合いを通して見方や考え方を深めていく学習の在り方

1 レポート発表

(1)中部地方を学習する上で、3つの地域を6つの視点からグループ活動で追究し、産業を通して各地域の特色をとらえる単元構想をした実践。(仁科台中)

(2)東北地方を生活・文化を通してとらえ、付箋紙を用いて事象を整理・関連させながら説明する活動を行った実践。(塩尻中)

(3)グローバル化を学ぶ場面で、特にTPPに着目し、様々な視点から社会的事象をとらえるために「ロールプレイ」を取り入れ、グループ討議を行った実践。(梓川中)

(4)幕藩体制を学ぶ場面で、各班に配られたホワイトボードを活用して意見をまとめたり、共有化したりしながら江戸幕府の強大な権力のしくみを理解するように単元展開を構想した実践。(川上中)

2 協議

(1)教科書と資料集をもとにして個人追究ができれば、教師も実践しやすい。また、生徒もテスト勉強しやすい。

(2)生徒も授業に取り組みながらもテストを意識する。知識・理解だけでなく、授業で考えたこと、追究したことがテストに出るのは良い。

(3)TPPは今の話題であるし、地理との関連も図られていておもしろい。

3 指導者の先生のご指導

生徒の意見や考えを整理・共有化していくために、観点の色分けや付箋紙、座席表などが活用されていた。時間短縮になるし、表現が苦手な生徒の意見も大切にできる、根拠を持てるなどの面からも有効な手立てだと言える。また視覚的に整理していくのは分かりやすい。

討議4 友との関わり合いを通して見方や考え方を深めていく学習

1 レポート発表

明治維新の学習で、「ストックシート」をもとに、時代の転換の様子を「スクリーンシート」にまとめる活動を行い、友との意見交換を通して時代の大観を行った実践。(附属長野中)

2 協議

時代を大観する場面で、生徒が「江戸時代って〇〇な時代」と自分の言葉で言えて欲しい。そのために、各時代ごとに特色をストックシートとしてまとめ、最後に書きためたストックシートをもとにして前の時代と比較したのは分かりやすい。

3 指導者の先生のご指導

たくさん学習してきた焦点化させるためのスクリーンシートは有効である。暗記学習になりがちな歴史の授業も言語活動を大事にし、歴史の学習は立場や見方が違えばいろいろな見方ができる。そして最終的にはそれぞれの生徒が我が国の歴史を自分の言葉で語って欲しい。

(文責者 塩尻中学校 中村広登)

【第2分科会】

第2分科会

討議1 身近な地域の調査から確かな根拠を裏付けにした言語活動を充実させていくための授業展開や生徒の問いを生かした学習問題の在り方

1 レポート発表

- (1) 白馬村の「観光」について生徒が地域に出て現状や村への思いを調査し、調べた事実をもとに社会的事象とその背景を関連づけて考察する力を伸ばそうとした実践。(白馬中)
- (2) 松本地域に伝わる「あめ市」と「戦国武将の伝説」に着目し、身近な地域の事柄とその将来にある社会的事象とのつながりを取り上げて考えさせた実践。(附属松本中)

2 協議

- (1) 身近な地域の調査における生徒が主体的に調査活動を行うためのテーマ設定の在り方について。
- (2) 地域の将来像まで見据えた「身近な地域」の教材化の在り方や調査活動における留意点について。

3 指導者の先生のご指導

- (1) 「身近な地域」の単元は義務教育の地理の総まとめとして位置づけられているので、「日本の諸地域」を学習した後に「身近な地域」を計画的に位置づけていただきたい。
- (2) 白馬中の実践のように、単元を通して問題解決型の学習が展開されるよう「単元を通してつける力」を明確にした学習を大事にしたい。
- (3) 自分たちの生活に関わりがあるほど興味関心高いので、身近な事例を取り上げ、地域から全体(世界)を見ていくような教材化をすすめていきたい。

討議2 社会的事象を多面的・多角的にとらえる力を高めるための単元展開の在り方

1 レポート発表

- (1) 「投資してもらえる会社とは」をテーマに会社づくりをすることを通して、現代の企業の仕組みや働きを理解し、社会における企業の役割と責任を考えた実践。(依田窪南部中)
- (2) 中国・四国地方の人々のインタビューの資料から生活への影響や思いを知ること、新たな視点から社会的事象についての認識を深めようとした実践。(丘中)

2 協議

- (1) 「日本の諸地域」における中核とした地理的事象を他の事象と有機的に関連づけて地域的特色をとらえさせる指導の在り方について。
- (2) グループでの言語活動の在り方について。

3 指導者の先生のご指導

- (1) 「世界の諸地域」や「日本の諸地域」の学習では、どの地域でどんな内容をどんな順番で学習するか、各校の創意工夫が求められている。「世界の諸地域」の学習が「日本の諸地域」の学習でも生きるよう、明確な意図をもった年間計画をお願いしたい。

討議3 歴史的事象の事実認識をより確実にするために、既習事項を生かしたり、見る観点を明らかにしたりする手だての在り方

1 レポート発表

- (1) 源頼朝が鎌倉に幕府を開いた理由を、人物マップの比較や登場人物の願いをまとめる活動を通して、古代から中世へ時代が転換していく様子を大観させた実践。(鼎中)
- (2) 日本の歴史の大きな流れを各時代の特色を踏まえて理解するために、「ストックシート」と「スクリーンシート」を使用し、近世から近代への時代の転換の様子を説明した実践。(附属長野中)

2 協議

- (1) 歴史的分野における思考力・判断力・表現力を伸ばすための「時代の転換の様子をとらえる」学

習や「各時代の特色をとらえる学習」の在り方について。

3 指導者の先生のご指導

- (1) 鼎中の予想したことの共有化に、座席表を利用し全体へ伝達できるようにした工夫などを各校でも参考にしたい。
- (2) 歴史の大きな流れをとらえることが求められている。歴史の流れと自分の生活を身近に感じられる歴史学習への工夫をさらにお願ひしたい。

討議4 問題解決に向かい生徒が意欲的に追及する姿を導く教師の支援の在り方

1 レポート発表

- (1) 異なる価値観で成長や幸福をとらえる「ブータン」の国策に触れることで、これからのアジア州の望ましい成長について考えを深めさせようとした実践。(赤穂中)
- (2) グループに与えられた資料を友と協力しながら読み取ることで、アフリカの経済の特徴を多面的にとらえさせようとした実践。(女鳥羽中)
- (3) 「はだしのゲン閲覧制限問題」について資料を根拠にグループで話し合うことで、公共の福祉の在り方について自分の言葉で説明した実践。(丸ノ内中)

2 協議

- (1) 「世界の諸地域」の学習での地域的特色の理解につながる主題の設定のしかたや単元展開の在り方について
- (2) 公民的分野における現代社会でとらえる見方や考え方を育むための新聞資料の活用の在り方について。

3 指導者の先生のご指導

- (1) 終末での児童・生徒が学習カードにどのようなことを書いてほしいかを教師が具体的にもつことで「何を」「どのように」教えるかが明らかになるので、どの分野での大事にしていきたい。
- (2) 表現力を高めるためにグループ活動では、学習問題に対して「何を」「どのように」話し合うか、話し合う目的を明らかにした活動をさせることに留意したい。

(文責者 女鳥羽中学校 日岐知佳)

【第3分科会】

討議1 「公民的分野における多面的・多角的に考察する力を高める指導の在り方」について

1 レポート発表

- (1) 自分の一人暮らしの家計設計図をつくり、友との話し合い活動を通して、社会事象を多面的・多角的に追究していく社会科学学習を目指した実践。(菅平中)
- (2) 日本の自衛隊や安全保障、平和主義について、友と関わり合いながら考察することで、生徒の多面的・多角的な見方・考え方を伸ばし、より公正な判断力を培おうとした実践。(鎌田中)

2 討議

- (1) グループ活動にすれば話し合いが始まるわけではない。生徒たちの間で必要感がなければ話し合いは成立しない。目的を明確にし、それに適した活動形態を模索すべきである。
- (2) 大人でも判断することが難しい題材を扱うには、最終的な生徒のすがたを想定し、提示する資料の価値や解釈を十分に検討しなければならない。そこに教師の教材観があらわれる。

3 指導者の先生のご指導

- (1) 学習指導要領に示された「対立と合意」、「効率と公正」の考え方を生かしたい。たとえば、4人グループで家族を想定して家計設計図を作らせる。それぞれの立場から議論し、どうやって合意に至ったかを語らせると、生徒の考え方を深めていけるのではないか。
- (2) 生徒の見方や考え方を広げたり深めたりするのが教師の役割。見方や考え方を広げ、深めさせ、

その変化を見届けられるように、意図的で具体的な手だてを教師がもたなければならない。

- (3) 「私はこう考える。なぜなら…」と生徒が語れるような思考・判断型の場面をつくるには、習得の段階で事実や論理を追究する個の学びを充実させたい。それぞれの生徒が習得した知識や概念をもとに、自分なりの見方・考え方をもち、それを語り合う必要感を生み出したい。

討議2 「多面的・多角的に地域的特色をとらえるための指導の在り方」について

1 レポート発表

- (1) マスコットキャラクターから近畿地方のまちの特徴にせまることで、社会的事象を自己に引き寄せる社会科学習を目指した実践。(屋代中)
- (2) 地元企業のアジアへの進出先やその理由を考察することで、基礎・基本を定着させ、多面的・多角的な視点から自分の考えに根拠をもてる生徒の育成を目指した実践。(信明中)
- (3) 歴史的景観を大切にす京都の企業の取り組みを追究することから、地理的事象を多面的・多角的に考察する力を高めさせることを目指した実践。(清水中)

2 討議および模擬授業

- (1) ご当地キャラを扱ったことは学習への意欲づけとしてよい。キャラクターをつくった人たちの思いに触れることで、その地域への理解が深まるのではないか。
- (2) 信明中の指導案をもとに、参加者で模擬授業を行った。

3 指導者の先生のご指導

- (1) 模擬授業は大切である。教師が想定する子どもの言葉は、本当に子どもが使う言葉なのかを検討したり、解釈したりして、教師たちが指導の方向を考えていくことが大事なのではないか。
- (2) 「世界の諸地域」では、人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を扱い、生徒の生活実感や関心に結びつく主題を設定したい。州を細分化した学習にならないよう配慮したい。
- (3) 単元の終末に、州もしくは地方としての地域的特色を自分の言葉で表現する時間をつくりたい。そのためにも、生徒に語らせたい地域的特色を端的に表した事象を取り上げ、他の事象や人々の営みと関連させて地域的特色をとらえさせたい。

討議3 「各時代の特色をとらえる指導の在り方」について

1 レポート発表

- (1) 天下泰平の世の中を百姓の営みからとらえさせることで、生徒が課題を明確にもち、学級の友と関わりながら主体的に解決していくことのできる社会科を目指した実践。(穂高西中)
- (2) 歴史的事象を可視化して比較したり、友と意見交換したりして時代の転換のようすをとらえることで、歴史的事象を多面的・多角的に考察する力を高めることを目指した実践。(附属長野中)
- (3) 地元に残るあめ市や伝説を調べることで、身近な地域の事柄とその背景にある社会的事象とのつながりをとらえ、時代や地域的特色を大観できる社会科学習を目指した実践。(附属松本中)

2 討議

- (1) 同じ資料であっても、単元のどの段階で扱うかによって、その資料のもつ役割や価値、教師のねらいが変わってくる。そこに教師の教材観が関わってくる。
- (2) 視点をもとに事実を整理していったり、その時代に生きた人々の立場や生活の息づかいを感じたりしながら学習を進めていくと、歴史を大観することによりつながってくるのではないか。
- (3) 歴史では言葉や用語を覚えさせるだけではなく、時代の転換点をとらえさせたい。各時代の終わり、その時代の特色を言葉でまとめる活動を入れていきたい。

3 指導者の先生のご指導

- (1) 歴史的分野の「大観」とは、「つまりこの時代は…」 「この時代を代表するものは…」などと説明できるようになることである。そのためには細かなことへの理解も必要。大観させるための事実

理解のエッセンスを、単元中の各時間の授業で配置するように計画する必要がある。

- (2) 学習問題に対する予想をもとに、自分で資料を集め、調べ、検証し、自分の言葉で表現すること、さらにその過程を振り返って自分の学びの意味を実感できることが社会科では大事である。
- (3) 身近な地域の歴史の教材化にあたっては、学習指導要領の中項目のねらいを意識し、付ける力を明確にして、素材を教材化する必要がある。

討議4 「生徒が主体的に活動できる社会科の授業の在り方」について

1 レポート発表

- (1) 織田信長とその抵抗勢力との戦いや政策の目的を追究する学習をもとに、日常の授業を「めりはり」をつけ、より楽しく・わかりやすい授業にすることを目指した実践。(和田中)
- (2) 北アメリカ州のヒスパニックの増加とその背景を追究する学習をもとに、生徒が主体的に活動できる授業を目指した実践。(伊那中)
- (3) 自分たちの暮らす地域で起こる災害に対する自分たちの行動を考えさせることにより、筋道を立てて考え表現する力を育てる社会科学学習を目指した実践。(辰野中)

2 討議

- (1) 地理的分野での自然災害の扱いは、特定の地域の事象のみを扱うのではなく、日本の自然環境の特色をとらえさせるために扱いたい。
- (2) 学習対象を自分事としてとらえられなければ、主体的な生徒の学びにはならない。そのために、身近な事象を扱ったり、自分に引き寄せられるようにしたりする手だてが必要である。

3 指導者の先生のご指導

- (1) 学習対象である社会的事象と自分とのつながりを感じさせたい。最初は細いつながりであっても、それを太いつながりへ導いていくことができるような単元展開の工夫が大切である。
- (2) 生徒自身の道筋で学習ができ、最後に達成感もてる授業を目指したい。「この子にはこんな資料でこんなふうに考えさせたい。」という願いをもった教材研究をしたい。

(文責者 松島中学校 荻原拓)

V 本年度の反省と来年度の方向

◎本年度の反省

項目	内容
○本年度の研究テーマについて	<ul style="list-style-type: none">・見方や考え方を深めること、表現する力を深めるというのは、今の社会科の学習指導要領でも大切なことなので継続できたら良いと思う。・「表現する」という言葉がとても良いと感じた。知ったこと、思ったことを表現し伝えたいと思うことで生徒主体の学びになると思う。・学んだ事を表現していくということはとても大切であると感じた。どのような形で表現させていくか、その手段を自分自身数多く学びたい。
○研究の主な内容と研究の成果、方向について	<ul style="list-style-type: none">・「表現していく学習」に関する手立てを学ぶ良い機会となった。・表現する場についての重要性がよく分かった。生徒の必要感をもとに場を設定したい。・良いと思う。表現するために、また文脈で社会事象をとらえるために「解釈」することも大切かと思う。
○レポートの書き方(項立て)について	<ul style="list-style-type: none">・討議したい内容が初めの方に書かれているためレポートを読むポイントがわかりやすくて良い。また、意見や疑問を言いやすいと感じた。・自由な部分を認めていただいているのでありがたい。引き続き、表紙以

	<p>外は各校独自の形式を認めていただけるとありがたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表内容はエッセンスを伝えたりお聞きしたりすることで良いと思う。故にレポートに沿った資料があると大変ありがたい。
○研究会までの日程や当日の運営について	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな学校行事も一段落し、研究会に出席しやすい時期であり、あらためて自分や学校の実践を振り返る良い時期であった。 ・研究会で学んだことを日々実践していきたい。当日までの準備に感謝したい。
○本年度運営全般について	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの先生方の実践されている授業（レポート）から、多くのことを学ぶ機会となった。自分の授業にもより良いところを取り入れられるように精進していきたい。 ・研究会を通してたくさんの刺激をいただけてありがたかった。 ・どの実践も苦労して教材研究したものであり、ぜひ生徒たちの姿がわかる学習カードや教材化に用いた資料も配布していただけたら大変ありがたい。授業での活用につなげたい。

◎来年度の方向

○来年度の研究テーマについて	<ul style="list-style-type: none"> ・今年並みに大きなテーマの方がレポートを出しやすい。この方向で良いと思う。 ・見方や考え方を深めること、表現する力を深めるというのは、今の社会科の学習指導要領でも大切なことである。根本的な部分は、継続で良いのではないか。
○来年度の研究の趣旨やサブテーマについて	<ul style="list-style-type: none"> ・同様で良い。 ・表現したいと生徒が思うための手立てが大切だと思う。
○来年度の研究の方法や方向について	<ul style="list-style-type: none"> ・同様で良い。 ・若い先生や初めて中学校を経験する人にとって、特に有益な場となれば良いと思う。 ・生徒たちが調べたい、学習したいと思う必要感が重要になると思った。
○その他、改善したい点	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート発表が多くて厳しい。できれば読み込み、考える時間がほしい。 ・レポート数はもう少し絞っても良いと思う。その分討議に時間を割ける。

VI あとがき

晩秋の一日、県下各地からお集まりいただいた先生方には、実践レポートや使用した資料などをもとにして、数多くの提案や討議をしていただきました。さまざまな学習形態を取り入れ、生徒一人一人の学びを大切にしようとする実践が発表され、また討議においても、それぞれの実践のよいところを学んでいこうとする先生方の熱意が感じられました。来年度もこのような熱心な研究会にしていきたいと考えております。終始適切で温かいご指導をいただきました南信教育事務所指導主事 櫻井 洋先生、東信教育事務所指導主事 柳澤 正寿先生、北信教育事務所指導主事 百瀬 顕正先生には心から御礼申し上げます。また、研究会を実りあるものにしてくださった司会の松本市立梓川中学校 簾田 典彦先生、塩尻市立丘中学校 可知 貴彦先生、松本市立清水中学校 白井 克典先生、細かく記録をとり、お忙しい日程の中で研究のまとめにご苦労いただいた記録の塩尻市立塩尻中学校 中村 広登先生、松本市立女鳥羽中学校 日岐 知佳先生、松本市立松島中学校 荻原 拓先生、数々の実践を携え熱心に協議していただいた参会の先生方に心から感謝いたします。ありがとうございました

委員長 酒井 文子
副委員長 内川 啓